

水前寺江津湖公園における管理・運営の現状と市民利用に関する研究

熊本大学工学部 学生会員 ○落合 要

熊本大学 正会員 星野 裕司

熊本大学 正会員 増山 晃太

1. はじめに

(1) 背景と目的

近年、我が国の都市公園は、施設の老朽化や市民の生活スタイルの変化、価値観の多様化により利用率、魅力の低下が起きている。また、行政の財政状況の悪化や、一人当たりの公園面積の増加¹⁾により、公園行政は建設する時代から利活用・運営する時代へと変化している。具体的な取り組みとしては平成 29 年の都市公園法改正により、都市公園における民間資金を活用した新たな整備手法として Park-PFI 制度が設けられた。また、研究対象地の水前寺江津湖公園についても今後の利活用品策定の動きがある。

水前寺・江津湖に関する既往研究では江津湖の湧水・地下水環境に関する研究²⁾がある。水前寺・江津湖の公園化に関する研究では、水前寺・江津湖を含む熊本市の 7 地区の風致地区指定と公園緑地計画との関連性を明らかにした研究³⁾や、風致地区指定後の周辺地域の整備状況を明らかにした研究⁴⁾がある。また、1930 年の風致地区指定当時の都市計画を整理し、北村徳太郎による初期の江津湖公園計画分析をおこなった研究⁵⁾や、水前寺・江津湖が公園化されてからの公園整備を詳細に分析した研究^{6) 7)}がある。

しかし、水前寺江津湖公園の管理・運営の現状やこれまでの公園内での市民利用に着目した研究は見当たらない。そこで、本研究の目的は水前寺江津湖公園の管理及び運営の現状と公園内の市民利用を明らかにすることとする。

(2) 研究対象と方法

対象地とする水前寺江津湖公園は公園面積 126.9ha の熊本市の都市公園である。公園地区は7地区に分けられる(図-1)。また、国指定の名勝・史跡「水前寺成趣園」や、細川家ゆかりの「砂取庭園」があり、歴史的に価値のある場所である。また、環境省から希少種、固有種等が生息する湖沼として「日本の重要湿地 500」に選定され、自然環境面においても価値のある場所である。公園内に図書館や体育館、動植物園を有しており、多様な価値を持つ公園であるという特徴がある。

本研究では公園の運営・管理の現状を、熊本市公園課へのヒアリングと指定管理者へのヒアリングで明らかにする。

市民利用は指定管理者へのヒアリングと熊本日日新聞記事

の水前寺江津湖に関する新聞記事及び、文献、イベント利用記録を基に分析を行う。



図-1 水前寺江津湖公園区域別図 (参考文献⁸⁾に筆者加筆)

2. 水前寺江津湖公園の管理・運営の現状

(1) 公園内施設管理者の構成と課題

水前寺江津湖公園内には多くの施設があり、運営の際に専門的な知識を要する施設も多い。それ故に管理主体が多く存在している(図-1)。指定管理者へのヒアリングによると、普段の業務に関しては専門性を生かし個々で業務を行っているが、各施設管理者が集まって情報を共有する場などは設けられていないという現状が分かった。また、イベントを複数の施設で催す際は、関係する施設のみで打ち合わせを行うため、同じ公園内の施設同士の情報共有不足が問題として挙げられている。広域公園で施設数も多いため、定期的に、各施設の代表者で現状報告をする場を設けられたらという指定管理者の意見もあるが実現には至っていない。

(2) 管理者の推移

平成24年の熊本市政令指定都市移行により水前寺江津湖公園の管理実態の変更点は大きく3点挙げられる。

1 点目は広木地区の管理が熊本県から熊本市に移行され

たこと、2点目は水前寺江津湖公園と区域が重複する河川区域である加勢川が熊本市に権利が移行したこと、3点目は政令市移行に伴い指定管理者による公園管理を開始したことである。これらにより公園区域のほぼ全域を指定管理者が管理するようになり、日常的な業務における管理・運営の複雑化を解消した。

(3) 指定管理者の運営状況

政令指定都市移行の平成24年から平成29年まで一般財団法人熊本市造園建設業協会（以降「造園建設業協会」と表記）が指定管理者を担っており、現在も平成29年から平成34年までの期間を造園建設業協会が請け負っている。業務内容は公園内の施設（園路、ベンチ、トイレ等）の維持管理から湖面の水草処分、駐車場の運営など多岐に渡る。また、市民団体と連携して公園内でイベントを開催したり、管理業務を行う際に公園愛護会の意向を確認して作業を行ったりなど、利用者の意見を公園業務に反映させるように努めていることが分かった。

3. 水前寺江津湖公園における市民利用

(1) 市民利用の概要

水前寺江津湖公園はイベント利用が様々な民間企業や市民団体により行われており、イベントを行う際は指定管理者に団体利用申込書を提出するように義務付けられている。また、日頃からボートを貸し出したり、公園内で軽食を提供している民間事業者や、日頃から公園の異常がないか確認したり清掃活動を行っている公園愛護会もある（図-2）。

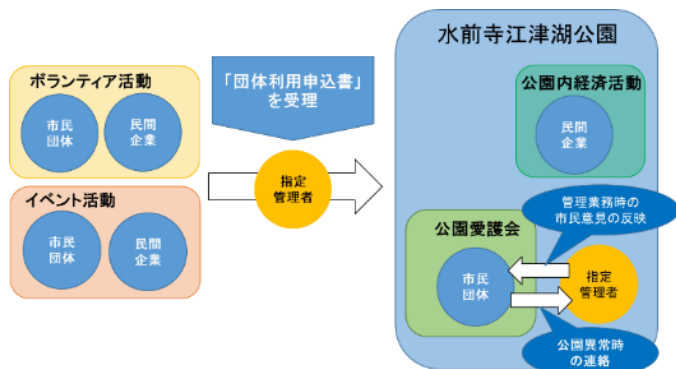


図-2 水前寺江津湖公園の市民利用の概要

(2) 公園内でのイベント

公園内で催されているイベントについて広木地区のサービスセンターの平成29年度のイベント活動記録を基に分析を行った（表-1）。表-1から分かるとおり、イベントが行われている箇所としては広木地区が大半を占めている。これは広木地区がイベント利用を想定して整備されたためだと考えられる。他地区で行われているイベントには上江津でバードウォッチング、出水地区では砂取庭園の清掃と学習

会などがあり、地区の特徴を活かしたイベントが催されている。ボランティア活動に関しては様々な地区で行われており、活動団体も学校、企業、地域住民など多種多様である。

表-1 平成29年度地区別イベント数

ボランティア活動		指定管理者主催イベント	
場所	回数	場所	回数
水前寺地区	0	水前寺地区	1
出水地区	1	出水地区	2
上江津地区	7	上江津地区	2
中江津地区	0	中江津地区	0
下江津地区	2	下江津地区	0
庄口地区	0	庄口地区	0
広木地区	6	広木地区	57
その他	3	その他	0
計	19	計	62

4. まとめ

水前寺江津湖公園は日常の管理の複雑化を解消されたが、管理主体同士の連携不足は未だに見られる。公園内のイベント利用に関して、指定管理者は駐車場不足の問題がなければ様々な地区の特色を生かしたイベントを行いたいという意向を示している。また、ボランティア活動は様々な組織によって現在も行われ、過去にも市民ボランティアによって、水害後の江津湖の浚渫が行われたことから、江津湖の環境を保全しようとする市民の動きは現在まで受け継がれていることが分かる。今後はこれまでの管理の現状、市民利用を踏まえて、水前寺江津湖公園における管理・運営のあり方を考察する。

【参考文献】

- 1) 国土交通省 都市公園データベース : http://www.mlitt.go.jp/crd/park/joho/database/t_kouen/pdf/01_h28.pdf
- 2) 荒牧ら：熊本市上江津湖の地下水環境に関する研究-国指定天然記念物スイゼンジノリの自生環境保護を対象として-、応用地質44(2), pp.104-111, 2003.
- 3) 阿部伸太：都市の公園緑地計画における風致地区の意義、造園雑誌56(5), pp.317-318, 1993.
- 4) 真田ら：戦前期熊本都市形成事業における風致地区の位置づけ、ランドスケープ研究66(5), pp.375-379, 2003.
- 5) 本田ら：近代熊本都市計画における江津湖の位置づけに関する一考察、土木史研究論文集28, pp.127-135, 2009
- 6) 森岡晃司：江津湖の水辺デザインに関する研究 平成27年度修士論文
- 7) 森岡晃司：水前寺江津湖公園に求められてきた都市機能に関する研究 平成25年度卒業論文
- 8) 熊本市ホームページ 水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会:http://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=19778